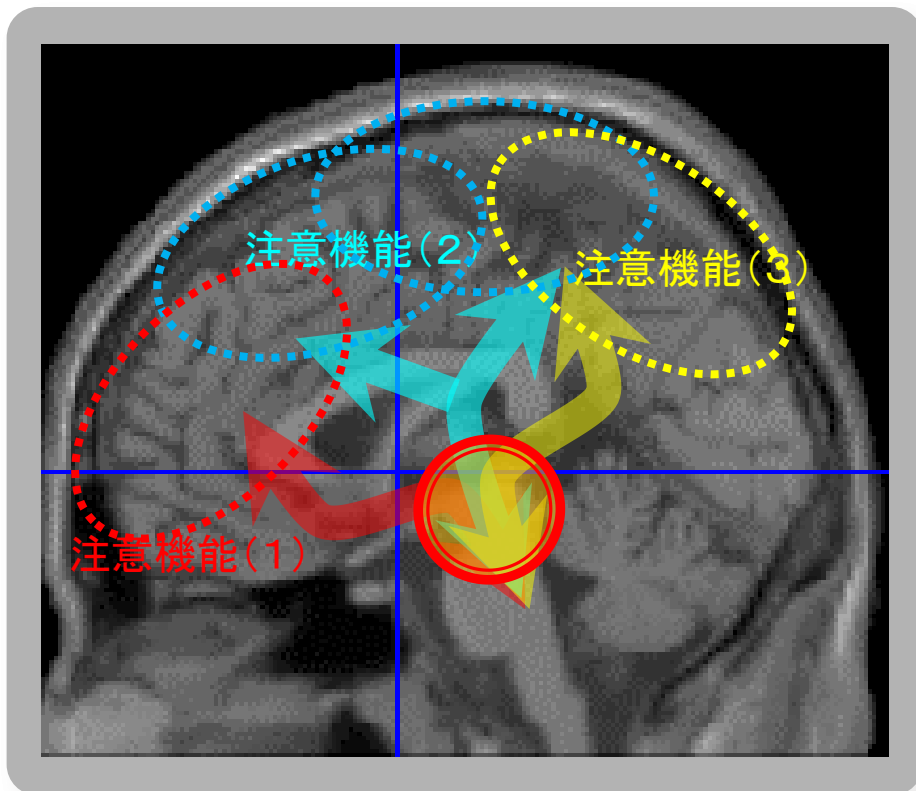


②脳卒中の高次脳機能障害

脳卒中で脳の一部に傷を負うと、手足の麻痺や言葉の障害と共に、新たな記憶が出来ない、ぼんやりしてミスが増える、物事が順序立てて出来ない等の高次脳機能障害が生じて、日常生活や社会生活が上手く送れなくなることがありますが、脳のどの部位が壊れたら起こるか等、十分に解明されていません。

我々は広島大学精神神経科と共同で、脳卒中患者さんのMRI画像から脳の損傷部位を同定し、多くの高次脳機能検査結果と比較することで、高次脳機能障害を引き起こす脳の領域を求めました。この脳領域には、多くの検査結果で脳の中央付近（視床～基底核）が含まれましたが、検査の種類によって関連する大脳皮質の領域は異なっていました。

脳卒中後の高次脳機能障害のうち、注意障害の脳領域に関する図



注意機能を行う神経回路の一つの説：脳の中央付近（視床～基底核）が一種の『幹』となって様々な情報が入ってきて、注意機能の種類に応じて、適切な脳の領域に情報が割り振られます。情報が処理された後の指令は『幹』に送られて実行されます。この様に注意機能は中枢に向かう流れと末梢に向かう流れを脳全体にわたる大きなネットワークを形成して処理されるという説 (Large-scale multimodal attentional network) です。

(Salmi et al., 2007; Baluch and Itti, 2011)

脳卒中後の高次脳機能障害に関する発表論文

Murakami T, Hama S, Yamashita H, Onoda K, Hibino S, Sato H, Ogawa S, Yamawaki S, Kurisu K.
Neuroanatomic pathway associated with attentional deficits after stroke. *Brain Res.* 2014 Jan 28;1544:25-32. doi: 10.1016/j.brainres.2013.11.029. Epub 2013 Dec 7.